



# 中学校部会会報

全日本音楽教育研究会

平成23年9月 1日発行 通算第63号

音楽の底力で感動を！

全日本音楽教育研究会中学校部会長  
原田 徹 (墨田区立堅川中学校長)



先の東日本大震災におきまして被災されました皆様に、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。そして、被災地の一日も早い復興をご祈念申し上げますとともに、厳しい環境の中で、子どもたちの教育活動に当たっておられる先生方に敬意を表します。

さて、上記の標題は、プロ野球、東北楽天の嶋選手会長が、4月2日のチャリティ試合冒頭のあいさつで、『見せましょう！野球の底力を。～共に頑張ろう東北！支え合おう日本！』と話した言葉を音楽に置き換えてみました。私は、嶋選手会長の言葉に感動し、忘れられない言葉となっています。

ところで、現行中学校学習指導要領音楽及び来年度から完全実施となる新中学校学習指導要領音楽の中には、『感動』という文字は出てきません。私の中には、平成元年告示の中学校学習指導要領音楽の学年の目標に示された、「音楽活動の喜びや共通の感動を体験させる～」という文言が深く印象にあります。当時の指導書に示されているように、一人一人の生徒の感性は異なるわけですから、同一、同質、同量の感動が生まれることを期待することは難しいとしても、集団で行う音楽活動をする喜びを共有することは大切であり、少なくとも、演奏する者同士、演奏する側と演奏を聴く側が、感動体験を共有することは大変重要なことと考えます。

音楽科の学力が問われる昨今ですが、新しく指導内容に加えられた〔共通事項〕の指導を通し、「音楽に対する感性を豊かにする」ことを中核の学力として育成しながらも、「音楽を愛好する心情を育てる」ために、『感動(深く物に感じて心を動かすこと)』(広辞苑)を音楽学習によって体験させていただきたいと願っています。

## 全国理事会、盛会裡に終了

事務局長 風見 章  
(杉並区立中瀬中学校長)



平成22年度の中学校部会の事業が、全国49支部の中学校音楽教育研究会等に支えられ、大きな成果を得て終了することができましたことを心から感謝申し上げます。

さて、去る、6月24日(金)に、江東区文化センターで開催されました全国理事会において、原田会長とともに再任され、3年目の事務局長となりました。どうか、よろしく願いいたします。当日は、20支部の支部長先生ご出席のもと、平成22年度各事業、決算等の報告、そして平成23年度の活動方針、予算等についての審議と承認をいただきました。また、「新教育課程移行期の課題」についての情報交換も行いました。

研修会では、栃木県小山市立間々田中学校の金森先生の授業実践報告と玉川大学芸術学部パフォーミング・アーツ学科教授、高須一先生の講演もいただきました。

今年度も、全国大会札幌大会をはじめとして、全国各地で行われる音楽教育研究大会の成功をお祈りしますとともに、音楽科教育の充実・発展を図るためにも、会員の皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### Contents

- P1 会長あいさつ 全日中音研会長 原田 徹 / 事務局長あいさつ 風見 章
- P2 理事会 研修会:実践研究発表 栃木県小山市立間々田中学校 金森 真由美 先生
- P3 研修会:講演「小学校音楽科との系統性のある中学校音楽科の内容と指導のあり方」  
玉川大学芸術学部パフォーミング・アーツ学科 教授 高須 一 先生
- P3 札幌大会《中学校部会》の概要
- P4 支部だより・大会案内・Information

### 発行

全日本音楽教育研究会 中学校部会  
東京都墨田区亀沢 4-11-15  
墨田区立堅川中学校内  
会長 原田 徹

## ◆ 全国理事会

- ・日時 平成23年6月24日（金）13:00～14:50
- ・場所 江東区文化センター



理事会は、堀内礼子副会長の開会の言葉(東日本大震災の被災地へのお見舞も添えられた)で始まり、続いて原田徹会長より挨拶があった。昨年度の熊本大会へのお礼と労いの言葉、音楽科の存在意義を継続して示していくこと、課題解決(創作の指導)を図る調査研究を行っていくこと、各支部との連携を強化し音楽科教育の充実・発展に努めること、そして札幌大会を各支部の協力により成功させたいという抱負などを力強く述べられた。

議事に入り、議長に選出された鎌田耕介支部長と広瀬ふみ子支部長の進行により、平成22年度事業報告、会計・監査報告、平成23年度役員承認・理事の紹介、活動方針と事業計画、予算、会則の改定等の審議が行われ、すべて承認された。加えて表彰者も承認された。

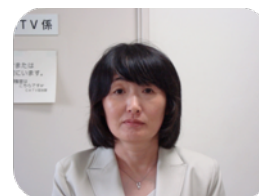
続いて各支部の情報交換が行われ、それぞれの支部の重点的な取組や研究、人材育成、小中連携、新学習指導要領完全実施に向けての取組等が各支部長より熱く語られた。

最後に、氏家仁志調査研究部長より今年度の調査研究の目的、内容、方法についての説明、井手公二副会長より昨年度熊本大会のお礼の挨拶、木村七郎副会長より今年度札幌大会の紹介、小林雅彦支部長より来年度長野大会の紹介があり、澁谷代志子副会長の閉会の言葉で終了した。

## ◆ 研修会 第1部 授業実践研究発表

「音を音楽へとつなげる創作の授業の工夫」

栃木県小山市立間々田中学校 教諭 金森 真由美 先生



学習指導要領改訂の具体的事項に、「音を音楽へと構成していく体験を重視するようにする」ということと「表現したいイメージを伝え合ったり、協同する喜びを感じたりする指導を重視する」ということが示されている。新学習指導要領完全実施に向けて「創作」を取り上げ、授業を改善・工夫していくために研究を積み重ねてきた。平成21年度関東音楽教育研究会栃木大会での発表を中心に話を進める。

まず、創作を行うために音楽の構成や記録方法について最小限の基礎的な知識を身に付けることが必要だと考え、音楽を形づくっている要素を掲示し、創作力を高めるために小山市独自のトレーニング方法を作成した。

次に、各学年の目標及び内容に沿った題材を次のように設定した。

- 1年 パーカッションで心象風景を表現しよう(リズム)
- 2年 コマーシャルソングをつくろう(言葉と旋律)
- 3年 日本の四季を音楽でつくろう(箏演奏)

関東音楽教育研究会栃木大会の研究を通して、音楽を形づくっている要素の働きが生み出す曲想を感じ取る力と創作力を高めることができた。

この研究を受けて、間々田中学校では1年で創作力を高めるトレーニング、2年で「パーカッションで心象風景を表現しよう」、3年で「ヴォーカルアンサンブルをしよう」という題材を計画している。

今後も授業のあり方を改善・工夫して、「創作」においてもより質の高い授業を展開していきたいと考えている。

◆研修会 第2部 講演

「小学校音楽科との系統性のある中学校音楽科の内容と

指導のあり方」



玉川大学芸術学部パフォーミング・アーツ学科 教授 高須 一 先生

学習指導要領における内容の系統性を考えるときに、まず中央教育審議会による各教科等への最大のミッションである義務教育修了段階において身に付けさせたい3つの柱（すべての子どもたちに身に付けさせたい知識・技能等の徹底）（自ら学び、自ら考える力の育成）（関心・意欲・態度）をいかに育んでいくかという点を抑えることが大事である。その上で、学習指導要領で示されているA表現・B鑑賞の小学校と中学校の内容構成の系統性を深く理解しながら、これまで以上に音楽に対して構造的にせまり、各活動の中で〔共通事項〕（音楽を形づくっている要素など）の働きをしっかりと理解して、音楽活動を展開していくことが大切である。

しかし、これまで小学校音楽科との系統性のある中学校音楽科の指導のあり方で課題となっていた全教科担任制・専科制と教科担任制との指導観の違い（学級経営、生徒指導、指導方法※子どもへのアプローチの仕方）や特別活動における音楽の生かし方（音楽を生かした特別活動か、特別活動に奉仕する音楽科授業か？）、言語活動の活用方法（特に鑑賞において）、我が国や郷土の伝統音楽の取り扱いについての理解などがあげられる。今後の課題解決に向けて学習指導要領を深く理解しながら、小中それぞれの内容構成の理解を図りながら連携を進めてほしい。

## 札幌大会《中学校部会》の概要

◆中学校部会 研究主題 「知覚・感受をもとに、生徒が主体的に学ぶ授業づくり」

◆日程 平成23年11月17日（木）

◆会場 札幌市教育文化会館（札幌市中央区北1条西13丁目）

### スケジュール

9:00	9:30	9:50	10:00	10:50	11:00	11:50	12:45	13:30	13:40	15:00	15:10	16:30	18:30	20:30
受付	授業説明	公開授業 ① ②		公開授業 ③ ④		昼食	部会総会	研究協議		ワーク ショップ		レゼ ション		

### 公開授業、研究協議

	領域分野	学年	題材名	指導者	学校名	助言者
①	器楽・創作	2年	箏の奏法を工夫して、イメージにあった二重奏曲をつくり、表現しよう。	中原 聡章	札幌市立向陵中学校	北海道教育庁総務政策局 教育政策課主査 渡邊 直樹
②	創作・器楽	3年	旋律の重なりを工夫して、リコーダーと箏の二重奏曲をつくり、表現しよう。	田中 幸恵	札幌市立真栄中学校	北海道教育大学教授 尾藤 弥生
③	歌唱	1年	情景や心情と曲想とのかみわりを感じ取って表現を工夫し、味わって歌おう。	山下 敦史	札幌市立南が丘中学校	大阪教育大学教授 田中 龍三
④	鑑賞	3年	残楽三返の特徴を感じ取って雅楽「越天楽」を味わおう。	田村 博子	札幌市立丘珠中学校	新潟大学教育学部教授 伊野 義博

ワークショップ これからの「器楽&創作」の教材を探る！ ～作曲家 中村彩子氏を迎えて～

## ◆ 支部だより ◆

～東京都～

東京都中学校音楽教育研究会  
会長 小松 康 裕  
(台東区立上野中学校長)

本研究会では、一昨年の全国大会（東京大会）でこれまでの研究成果を広く発表することができました。中学校部会の研究テーマであった『自分の思いを表現できる生徒の育成を目指して』を継続研究主題に設定し、次年度から全面実施される新学習指導要領で示された〈思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力〉としての「音楽の学力」を育成する授業づくりを目指す研究を、機能的・効率的に推進するために組織改訂を行いました。これまでの「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」の領域・分野別の研究組織から、全体を貫く改善課題に対応できるよう、課題別研究グループで実践的研究を行っています。

第1グループは「新観点に基づく適切な観点別評価と指導内容の関連を図る授業研究」、第2グループは「学習指導要領に沿った題材構成による系統的な授業実践」の2グループで2年間にわたる実践研究を推進します。24年度末には研究成果を「第62回東京都研究大会」として発表する計画です。

その他、授業実践を支える基礎研究としてこれまで継続してきた多様な実技研修や企画も充実させます。〈合唱指導法講習〉〈中学生創作コンクール〉〈教員演奏会〉〈伝統的な音楽の実技研修〉など更に内用の充実を図っています。

622校、719名の会員を抱える大規模組織の運営は様々な困難を伴うとともに、多くの優れた指導実践に満ちています。それらを共有し、高める研究を推進して参ります。

### 平成23年度研究大会案内

- 10月6～7日 九州音楽教育研究大会 長崎大会(長崎市)
- 10月14日 関東音楽教育研究大会 神奈川大会(横浜市)
- 10月21日 東海北陸小中学校音楽教育研究大会 富山大会(富山市)
- 11月 2日 東北音楽教育研究大会 秋田大会(秋田市)
- 11月11日 長野県音楽教育研究大会 塩筑大会(塩尻市)
- 11月11日 中国・四国音楽教育研究大会 岡山大会(倉敷市)
- 11月17～18日 全日本音楽教育研究大会全国大会 札幌大会(総合大会)
- 11月22日 近畿音楽教育研究大会 大阪大会(大阪市)

### Information

ホームページリニューアルしましたので是非ご覧ください。

全日音研中学校部会

HP アドレス

<http://zennichionken-jhs.jp/>